

細菌性赤痢



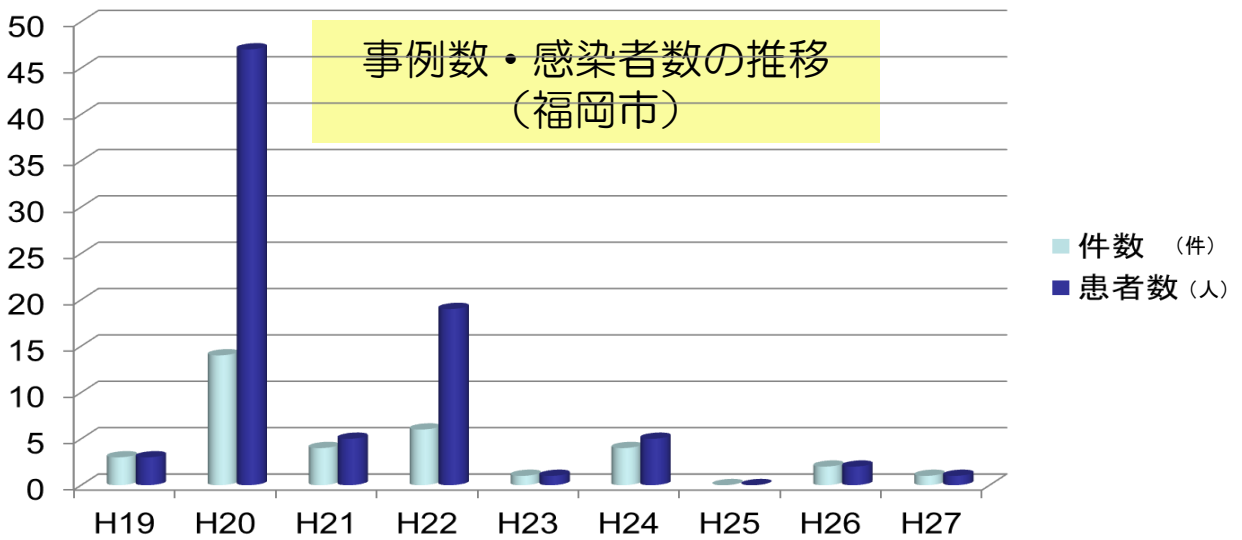
細菌性赤痢とは

細菌性赤痢は、赤痢菌が食品やヒトから感染することによって起こる病気です。この菌に感染すると、発熱・腹痛・水様下痢・膿や粘液の混じった血便などの症状が見られます。

最近では赤痢菌に感染しても、数回の下痢や軽度の発熱など症状が軽い場合も多いのですが、このような症状が出たら、早急に医療機関を受診するようにしましょう。

菌が少数でも感染するため、人から人への感染による集団感染事例（保育所など）や家族内感染事例が報告されています。

細菌性赤痢は日本では起こらないと思っている方も多いようですが、海外（アジアが多い）の感染だけでなく、日本国内、もちろん福岡市でも毎年感染が起っています。



近年の国内で発生した大規模事例

2008年
福岡市内で複数名の
細菌性赤痢患者が
報告された

- 1998年 長崎市（井戸水）
患者数 821名
- 2001年 全国規模（カキ摂取）
散在的集団発生（Diffuse outbreak）
- 2008年（H20）福岡市（輸入冷凍海産物）
患者数 38名

疫学調査

食べたもの
飲んだもの
発症日時 …など

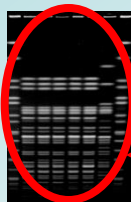
福岡市内の3カ所の施設で
同一の輸入冷凍海産物を
食べていることが判明

発症者に供された共通食材は輸入冷凍海産物

患者の赤痢菌の遺伝子を解析

それぞれの事例で分離された
赤痢菌が同じパターンを示した

同じパターンを示すと
感染源は一緒とみなすことができる



輸入冷凍海産物による
食中毒であると判明

感染拡大防止